

平成28(2016)年度

事業計画書



Ver.1.7k

2016年3月

学校法人 四條畷学園

目 次

平成 28 (2016) 年度事業計画の策定にあたって	2
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ	4
長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方	5
中期計画の骨子	7
事業計画	
法人本部	8
四條畷学園大学	
リハビリテーション学部	10
看護学部	13
四條畷学園短期大学	15
四條畷学園高等学校	19
四條畷学園中学校	22
四條畷学園小学校	24
四條畷学園大学附属幼稚園	26
主な新規事業計画	29

平成 28（2016）年度事業計画書の策定にあたって

四條畷学園は平成 28 年（2016 年）4 月、創立 90 周年を迎えることとなりました。これもひとえに、創立から今日に至るまで温かく見守り学園を支えていただきました諸先輩をはじめ関係各位のご尽力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

昨年度は 90 周年記念事業の一環として大学に看護学部を設置しました。これは高齢化社会を迎え、地域にとってなくてはならない存在となりつつあるリハビリテーション学部に加え、時代のニーズ、地域のニーズに合った看護学部を作ることにより、大学の機能を高め、学園の持続的な発展を図るためであります。大学の新学部設置はかなりハードルが高い事業でしたが関係各位のご努力により、27 年 4 月無事 85 名の新入生を迎えてスタートすることができました。

幼稚園新園舎も完成しました。仮園舎でご不便をおかけしましたが、新園舎では広い保育室、遊戯室で園児の皆さんののびのび活動されています。保育室の屋上に作った菜園も大好評です。

ところで、現代社会は経済を中心とするグローバル化、少子高齢化、情報化といった急激な社会変化の中、労働市場や産業・就業構造の流動化などにより、将来予測が困難な時代となってきています。こんな時代を逞しく生き抜くためには自ら「答えのない問題」を発見し、その問題に対し原因を究明し、対応策を考え、実行することができる知識と能力が求められます。そのため教育機関には単に知識を教えるだけではなく、実習や体験活動を通して行う質の高い教育が求められています。

四條畷学園は創立当時から偏差値教育に偏らない人間教育を志向し、実習や体験活動などを伴う質の高い教育、すなわちアクティブラーニングを実践してきました。しかし、時代の変遷とともにその取り組みが十分理解され、強みとして認識されにくくなってきたことも事実です。

90 周年を迎えるにあたり、こうした教育環境の変化に対応するため今一度建学の精神に立ち返り、四條畷学園の強みを伸ばすと共に弱みを克服することにより四條畷学園の持続的な発展を目指し、100 周年に向けての長期ビジョンを念頭に、平成 30 年度まで（看護学部完成年度）の中期計画を策定しました。

二つ視点があります。「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」でありまず。「募集力の維持・強化」のためには募集競争力を高めるための「教育改革（特色ある教

育・学園ブランドの向上)」や「管理体制・財務基盤の強化」のための「ガバナンス（統治能力）改革」への取り組みが重要になります。両視点に共通するテーマとして学園ブランドを毀損させないための「風評リスクの極小化」が必要であることは言うまでもありません。

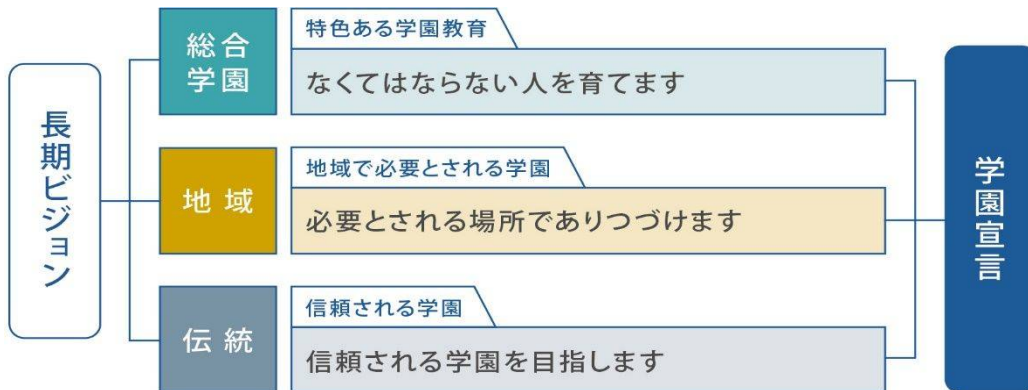
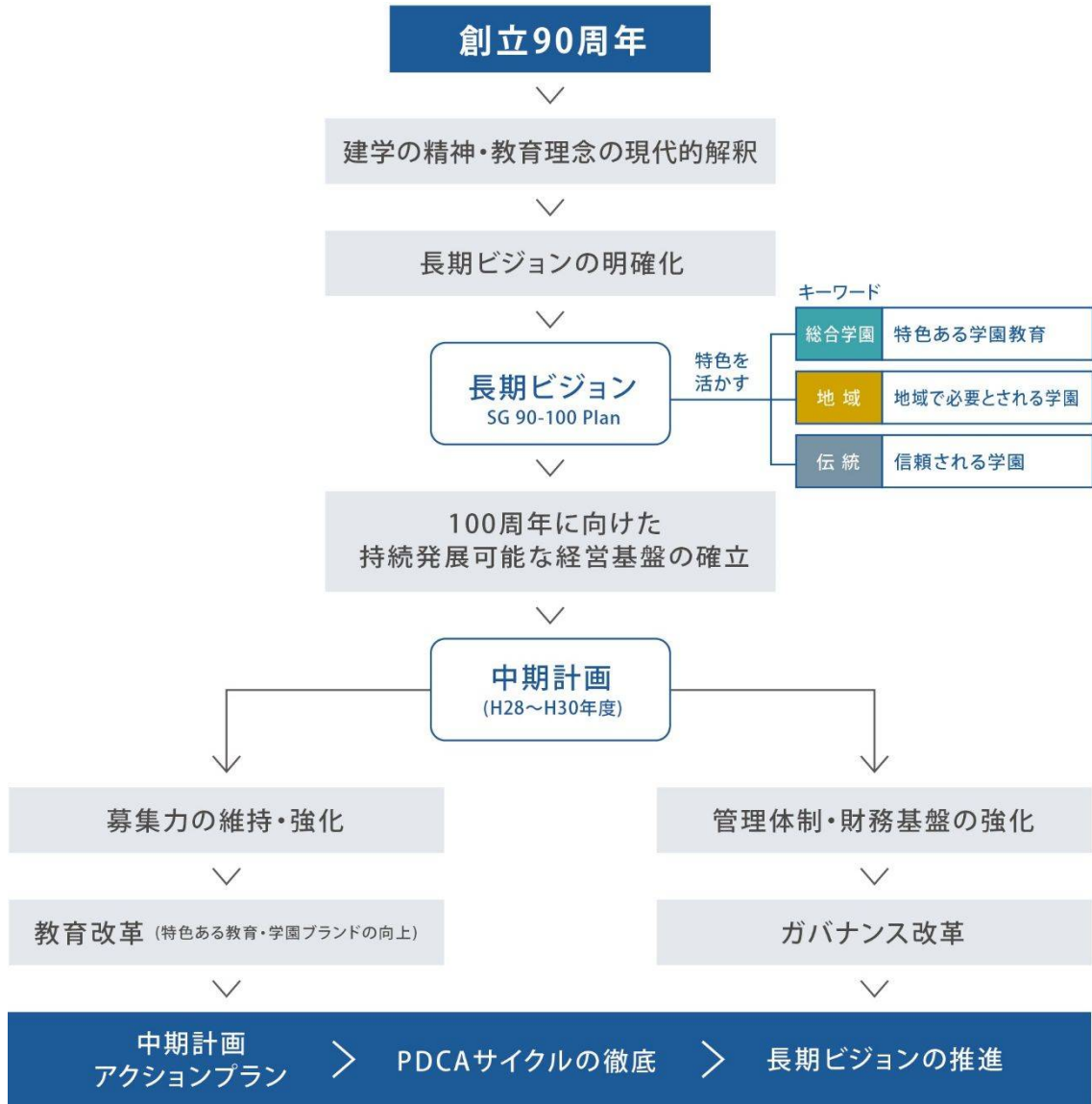
同時に、中期計画に基づき各校園ごとにアクションプランを策定しました。校園ごとにそのアクションプランを着実に実行し、その進捗を検証し、課題を見つけ、改善していきたいと考えています。

また予算編成につきましては、看護学部設置、幼稚園園舎建替えに伴う一連の投資が一段落するため、財務内容の安定を第一に人件費、物件費ともメリハリをつけた予算編成を行っています。併せて予算管理の精緻化を一層進めます。

今年度は中期計画の初年度にあたります。私学を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあり、この中期計画を机上の空論に終わらせることなく着実に実施し、成果上げていくことが持続的な発展につながる道であります。改めて教職員一同気を引き締めて日々の活動に取り組んでいく所存です。

学校法人四條畷学園
理事長 川崎博司

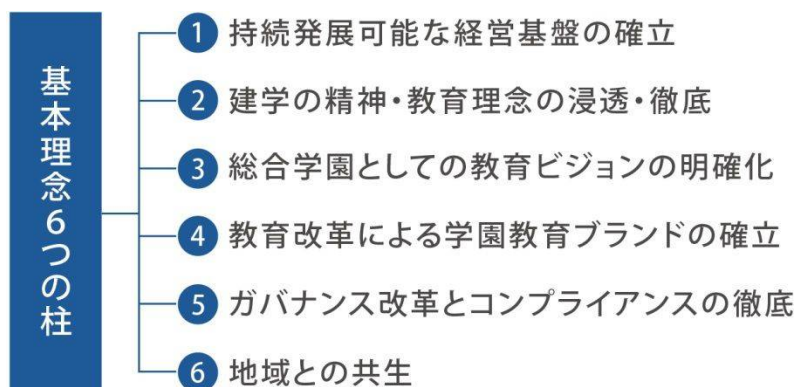
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ



長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方

1. 基本理念

今回の長期ビジョンでは 100 周年をいかたちで迎えらるよう六つの基本理念を設定して検討を進めました。



① 持続発展可能な経営基盤の確立

100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。

② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底

90 周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。

③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化

「総合学園というが、学園全体の統一イメージがわからない」といった声に対し、各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、教育ビジョンの明確化を図ります。

④ 教育改革による学園教育ブランドの確立

現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育現場主導の教育改革を重視します。

⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底

全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者のリーダーシップが発揮され、それによる各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス(法令順守)意識が徹底されていることが必要不可欠です。合わせて、ディスクロージャー時代を迎え、財務情報等様々な情報を公開することにより、運営面での透明性を確保していきます。

⑥ 地域との共生

地域密着型の総合学園として、募集面だけでなく、保健医療系大学としての特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

2. 長期ビジョンの基本的考え方

【特色ある学園教育】

- 総合学園としての教育ビジョンは必ずしも統一されたものではありませんが、学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。
- 近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う質の高い効果的な教育すなわちアクティブラーニング(文科省)」と「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。
- 90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

【地域で必要とされる学園】

- 「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現状、近隣地域の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。
- リハビリテーション学部看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知(地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が高まっています。

【信頼される学園】

- 90年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100周年に向け、引き続き、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。
- 近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。
- SNSの時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。
- 私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心としたPDCA管理の徹底が求められています。

中期計画の骨子

1. 基本的考え方

中期計画の骨子は以下のとおりですが、期間は平成 28 年度～平成 30 年度の 3 年間になります。平成 30 年度は看護学部の完成年度であり、数値計画としては看護学部設置申請時に文科省に提出した事業計画が基本になります。



2. 中期計画アクションプランの共通テーマ

長期ビジョンの基本理念である 100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のためには「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」という攻めと守りを同時に高いレベルで実現することが求められます。これらの課題は校園間、教学・事務間の協働・連携等全学横断的な対応が求められることから中期計画アクションプランの共通テーマとしました。

共通テーマ

- ① 募集力の維持・強化
- ② 管理体制・財務基盤の強化

3. 具体的な展開方法

中期計画アクションプランに基づき、全学、校園、本部・各事務室それぞれあるいは協働・連携して展開していきます。教育改革については今後の「持続発展」に必要な「募集力の維持・強化」に直結する「特色ある教育・学園ブランドの向上」を重要テーマとします。ガバナンス改革については平成 29 年度の大学認証評価受審対応と並行して見直しを行い、体制整備を図っていきます。

展開方法

- ① 教育改革(全学・校園別)
- ② ガバナンス改革

事業計画

四條畷学園 法人本部 1

No	分野	施策名称	事業計画
1	重点取組事項	長期ビジョン・中期計画の浸透・徹底	・90周年を機に、総合学園としての「教育ビジョンの明確化」と今後一層の「経営体質の強化」をテーマとして策定した長期ビジョン(SG 90-100 Plan)・中期計画の浸透・徹底
2		大学看護学部設置履行状況調査対応	・大学看護学部設置に伴う諸課題に対し計画的な取組みと看護学部の充実
3		大学認証評価受審準備体制の強化	・平成 29 年度の大学認証評価受審対応について、中期計画のガバナンス改革と並行して見直し、整備
4		創立 90 周年事業の準備・実施	・記念事業推進委員会を中心とした記念事業計画・記念行事計画の順次実施
5		創立 90 周年記念寄附金募集の推進	・教育の一層の充実を図るため、寄附金募集期間を平成 28 年度末に延長 引き続き、記念事業推進委員会を中心に寄附金の募金活動を推進
6	教育内容・水準の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・今般の中期計画では、90周年を機に、「建学の精神・教育理念」の現代的意義と各校園の「特色ある教育づくり」との関係を再確認し、総合学園としての「発信力の強化」につなげるために「教育ビジョンの明確化」をテーマとして推進 ・各校園の活性化に対する取組みの支援 ・校園間の連携の一層の強化
7	教育・研究環境の充実		・学生・生徒・児童・園児がより良い教育を受けることができるよう、また教職員がより良い指導ができ、より充実した研究ができるように建物、IT 等の教育環境の整備・充実の推進
8	教育・研究基盤の整備		・教職員の資質向上を支援するために 自己研鑽支援制度等研修体制の継続・整備と研究図書等の充実
9	社会貢献・文化活動の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・四條畷学園は地域とともに歩み、地域に貢献する学園であることをふまえ、各校園の研究・活動成果を地域に還元することを推進 ・各校園で行っている生徒等による自主的なボランティア活動を支援
10	経営管理機能の強化	理事会・評議員会の管理機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した学校運営を継続的に行っていくために学校法人の管理運営機能の充実を図るべく理事会、評議員会での議論の活性化 ①理事会・評議員会における議案書の充実 ②監事の監査機能強化のため内部監査体制の整備・強化
11		財務体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が永続的に存続できるため財務体質を強化 ①不採算部門の対応策の抜本的検討 ②経費削減・抑制に向けた取組み、予算管理の徹底 ③収入確保に向けた諸方策の検討・実施 ④寄附金受け入れ態勢の整備・強化 ⑤財務情報のアカウンタビリティ〈説明責任〉の充実

No	分野	施策名称	事業計画
12	経営管理機能の強化	事務部門の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の高度化に対応するため事務部門（本部事務局・各校園事務室）を強化 ①リスク管理機能の強化 ②人材育成・事務品質向上のためのSD活動の推進、人事評価制度の見直し ③戦略的な広報体制の整備 ④マーケティング力の強化
13		同窓会等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・四條畷学園を中心とする各種団体との連携を強化し、多方面から支援していただく態勢を構築 PTA・保護会、同窓会、後援会、楽楠会（教職員OB会）、友の会

四條畷学園大学 1
リハビリテーション学部

No	分野	施策名称	事業計画
1	教育内容・水準の充実	新カリキュラムの定着	<ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度より導入した新カリキュラムの定着により、専門職にふさわしい教養と専門的知識・技術を修得し、社会のニーズに答えることのできる人材を育成 国家試験合格にも繋がるよう教育内容の一層の充実
2		FD 活動の拡充と教員教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 前後期とも学生による授業評価アンケートを実施 結果分析により問題点を洗い出して対策を立案 PDCA サイクルを回し、授業内容の改善を推進 FD 研修会により教員相互の情報共有を推進 毎年度末、非常勤講師を含む全教員による会議を開催し、情報を共有 FD 委員会からの授業評価アンケート結果の報告 学年担任から専攻別・学年別の修学状況の報告 各教員の教育力の確認、チェック方法を模索し、教育水準を改善
3		学生の学業向上への支援	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より四條畷学園臨床心理研究所（ICP）と協力し、学業断念の防止のため、入学時の不安・ストレス等に関するアンケートを新入学生と保護者に実施 学期毎の GPA を追跡し、その経緯と不安などとの関連性や、中途脱落などを事前に予知し、対策を打つなどの取組
4		基礎学力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 27 年度から導入した入学前教育「なわてドリル」を入学後も活用
5	研究活動の活性化		<ul style="list-style-type: none"> 三次元動作解析システム「VICON」や笑顔度を測定する「スマイルスキャン」、脳機能測定機器「赤外線酸素モニタ装置」、動作分析ソフトウェア「ダートフィッシュ」などを活用 生体反応測定システムや神経機能評価機器を使い、生理学実習や神経生理学療法などの授業や研究に活用 外部の競争的研究資金導入については、昨年度に続き神経機能評価機器を用いた研究計画のほか、8名の教員が科学研究費補助事業に応募中 引き続き積極的に外部資金の導入を企図
6	教育・研究基盤の整備	学内教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> これまでに、評価実習室、学生ラウンジ、ゼミ室等に無線 LAN が可能となるように、機能整備するとともに、スマホ用無線 LAN（WiFi）を設置し、学生の PC・携帯電話・スマホ使用の環境整備を実施 引き続き学生満足度向上のために学内設備を拡充
7		図書館利用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学内蔵書の検索を学外（自宅）でも可能にすることや、教材の DVD 化 電子書籍の追加導入等、更なる電子化を推進
8		学舎の整備	<ul style="list-style-type: none"> 教育現場の透明化・可視化の推進 講義室、実習室、教員研究室の窓ガラスの透明化実施 学生保健室についても、環境に配慮した場所への変更と整備により、利便性と安全性を向上 清掃専門業者による定期的メンテナンスの実施、女子トイレの環境改善等引き続き学舎を整備、改善

四條畷学園大学 2
リハビリテーション学部

No	分野	施策名称	事業計画
9	社会貢献・文化 活動の推進	市民公開講座の 開催	・リハビリテーション学部、看護学部のジョイントによる講座の開催
10		四條畷市との 連携	・「なわて ふれあい商工祭り」への参加
11		大東市との連携	・「介助犬のひろば in 大東」での身体障害者補助犬の啓発活動への教員 参加 スマイルミネーション事業への学生ボランティアの派遣等
12		模擬授業、サマー セミナー実施	・大阪府下の高校を中心に模擬授業を実施。(約20校) ・大学コンソーシアムとの連携により、中学生向けセミナーを開催(夏期)
13		施設の開放	・日本理学療法士協会、大阪府理学療法士協会、日本作業療法士協会、大 阪府作業療法士協会に会場提供
14	進路支援・ 就職支援・ 卒業生支援	学生進路の支援	・学生が勉学の途上で脱落することの無いように、教職員によるきめ細か な支援体制を整備 ・四條畷学園臨床心理研究所 (I.C.P) と連携し、学生の精神面での サポート実施
15		就職支援の強化	・国家試験に合格すれば、ほぼ100%就職できる状況にあるため、国家 試験の受験対策として、次のような対策講座を実施 ①基礎講座 (過去問題解答・解説講座含む)・・・18コマ 36時間 ②模試実力アップ講座・・・12コマ 24時間 ③一週間集中講座・・・17コマ 34時間 ④グループ別対策講座・・・受験生のレベルに応じて必要な時間数
16		卒業生の支援	・国家試験合格が年々厳しくなる中、国家試験を再受験する卒業生に対し ても、現役生と同様の対策プログラムを用意し、合格率向上を図る研究 生制度を設けており、基礎講座、集中講座の受講や、個別指導等の受験 対策、図書館等大学施設の利用、模試への参加、出願手続きの支援な ど、該当者を支援
17	学生等募集対策	学生募集力の 強化	・オープンキャンパスについては、リハビリテーション学部と看護学部の 開催日を統一して、日曜日午前の開催とするとともに、共同開催なども 計画 ・ホームページの全面改訂、SNS の利用など、主に WEB 媒体の活用を中 心に据え、従来の手段に囚われない広報を実施 ・教職員による高校への訪問頻度を高めて、高校での出前模擬授業の実施 や、進学セミナーへの参加などを強化 ・オープンキャンパスに替わるウィークデイ・キャンパス・ヴィジットの 開催等も検討し、受験希望者の要望に沿うような情報提供を強化

四條畷学園大学 3
リハビリテーション学部

No	分野	施策名称	事業計画
18	学生等募集対策	入試方法の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> ・AO入試や推薦入試については、時代の要請に応じた変更等を実施 ・入試の日程をリハビリテーション学部と看護学部が出来る限り統一を図り、シンプルにすることで、受験者への判り易さと、志願者増を企図
19	災害対策等への取組	コンプライアンス管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・研究不正の防止のため、平成27年度に、教職員のE-Learning受講と修了義務付けを導入 その継続により、コンプライアンス教育を定着化
20		リスク管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・業務ミスやトラブルに係るヒヤリ・ハット報告の励行により、リスク管理体制を強化 ・アカデミック・ハラスメントの予防策として教室、実習室、研究室の窓ガラスの透明化を実施
21		危機管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民との連携を含めた防災マニュアルの見直しの実施。 ・非常時の防災用品、防災ヘルメットの装備の充実 ・大阪府警本部主導の「防犯キャンパスネットワーク大阪」の加入により、防犯面の情報の活用や犯罪防止のための四條畷署との連携強化

四條畷学園大学 4
看護学部

No	分野	施策名称	事業計画
1	教育内容・水準 の充実	各専門領域間の 連携	・FD研修会における各専門領域の教育内容の共通理解
2		カリキュラムポ リシーの明確化	・カリキュラムワーキンググループによる検討と明文化
3		教員力の強化	・専任教員の教育力の強化、特に学生の学習レベルに対応した教育スキルの研修 ・教員同士による授業評価体制についての検討 ・学生が実施している授業評価の具体的活用についての検討
4		学修成果の 可視化	・学年ごとの入試別 GPA 分析実施
5	教育・研究環境の 充実	IT の教育への活 用	・教科目「ヘルスアセスメント」に iPad を導入
6		臨地実習施設の 開拓と連携の強 化	・臨地実習施設（管理者）との連絡協議会の開催 ・臨地実習施設（各病棟単位）との連絡調整会の体制づくり ・新規の臨地実習施設の開拓
7		学生ニーズへの 対応	・学生生活アンケートの実施 ・アドバイザーグループごとの代表学生と学部長及び学科長との懇談会実施 ・保証人対象の教育懇談会実施
8	教育・研究基盤の 整備	学習環境の整備	・図書室の閉館時間延長の検討 ・教室の確保：3年次の臨地実習開始までに、小教室を複数確保する必要あり
9		研究環境の整備	・実験室の確保を検討
10	社会貢献・ 文化活動の推進	地域連携・ 貢献事業	・シリーズ「生活習慣のすすめ第二弾」市民公開講座の実施（3年計画） ・健康教育や個別相談の実施 ・各種研究会や研修会の実施 ・実習施設に対する教員の講師派遣 ・看護学部研究・教育ボランティア登録者の活用
11		中学校との連携	・中学生を対象とした出前授業。（健康、進路等）
12	進路・就職対策	キャリア教育	・保健師、助産師、専門看護師、認定看護師等に向けての特別講義の実施。 ・ライフワークバランスを視座とする看護専門職による講演会や座談会の検討
13		国家試験対策	・各アドバイザーグループの学習委員（学生）と国家試験対策委員会との協働による対策 ・低学年用模擬試験の受験と結果に基づく学習対策

四條畷学園大学 5
看護学部

No	分野	施策名称	事業計画
14	学生募集対策	募集力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・大学及び学部ホームページの充実 ・オープンキャンパスのプログラムの見直し ・進学相談会の重点配置 ・受験実績のある高校を中心とした高校訪問強化 ・出前講義
15		入試方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・入試科目の検討 ・入試別定員配分の検討 ・指定校推薦の検討
16		学部ブランド力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞や交通機関広告等による知名度の向上 ・ホームページ等による教員の研究活動の周知 ・ホームページに学部教員の得意とする健康に関するテーマを掲載
17	災害対策		<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園との合同訓練の実施 ・学部防災ルール並びにマニュアルの策定
18	学部運営		<ul style="list-style-type: none"> ・学部各種委員会の見直し ・事務方を含めての役割分担の整備
20	その他	将来構想の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・研究教育実践センターの設置に向けての検討

No	分野	施策名称	事業計画
1	重点取組事項		<ul style="list-style-type: none"> 効果的な募集活動により、募集定員 180 名（保育 100 名、ライフ 80 名）以上の入学者を安定的に確保 ライフデザイン総合学科の再構築と、募集停止した「総合福祉コース」在学生の卒業に向けた教育サポートを徹底 保育学科は「音楽教室」等の特色を生かし、競合他校と差別化 アクティブラーニング等の教育ツールの導入や授業評価の改善により、授業の質を向上 事務部門は、コンプライアンスに則った業務改善の推進と業務ミストラブル・ヒヤリハットを活用したリスク管理を徹底
2	教育内容・水準の充実	共通	<ul style="list-style-type: none"> 学生の満足度が高く、質の高い教育を効果的に提供 <ul style="list-style-type: none"> ①学修成果評価表の全数分析による目標到達度検証を行い、到達度の低い教科目の内容（授業方法やカリキュラム）を改善 ②教育スキル向上や授業内容の充実に繋がる「教員相互の授業参観」や「学生の授業評価アンケート」の有効性を高めるため、実施内容・時期、改善方法等を検討 休学・退学可能性のある学生の早期発見、親身な生活・学習面のサポート、保護者との密な連携等により、休・退学者の発生を防止 短期大学における 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を平成 28 年度出状予定の「文科省ガイドライン」に沿って点検、整備
2		保育学科	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育における音楽（ピアノ）の重要性と本学のピアノ教育メソッド（マンツーマンや情操教育）の特色を本学 HP や学校案内で分かりやすく説明し、「音楽に強い保育学科」の認知度を向上 「ステージアップセミナー」の内容を充実し、より人間性豊かな教養ある「なわてジェンヌ」を育成 将来的に保育士が介護業務を兼ねる国の政策を念頭に、活性化委員会等で「保育」と「介護」の連携を視野に入れた教育の在り方（「介護職員初任者研修課程必須化」等）を検討
3		保育学科	<ul style="list-style-type: none"> 実習先との連携を密にし、実習内容を充実・向上 <ul style="list-style-type: none"> ①前年の評価表実績に基づき、事前・事後学習の内容を改善 ②実習先との意見・情報交換の機会を増やし、実習内容の一層の充実

四條畷学園短期大学 2

No	分野	施策名称	事業計画
4	教育内容・水準 の充実	ライフデザイン 総合学科	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・マナーに始まり、自分で考え、能動的、責任感を持って行動する「明るく、元気な」人材（社会的基礎力のある）人材を育成するため、教職員が一体となって教育 ・できるだけ自由に科目を選択できるようカリキュラム・時間割を工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行い、また、各学生が的確なエリア選択（将来の生活設計）ができるよう各エリアの就職先・キャリアパスを具体的に例示することで、学科の魅力を向上 ・専門学校に負けない実践力を育成するため、「アクティブラーニング」を積極的に導入 ・樟葉祭のプライダルショーに加え、テーブルアレンジメント、ギフト・ラッピング、フラワーアレンジメント等の学生作品展を開催し、学生の学習モチベーションを高揚
5		総合福祉コース	<ul style="list-style-type: none"> ・各学生にきめ細かい学習指導、実習支援、就職支援を徹底し、在籍学生の卒業・就職等を最優先課題 ・活性化委員会を中心にライフデザイン総合学科内に「健康福祉エリア」（地域包括ケアシステム専門職員養成コース）新設することを検討
6	教育・研究環境の 充実	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力を効率的に高めるため「E-ラーニング」によるすきま学習の導入や現行の読書感想文に追加すべき新たな入学前教育を検討
7		ICT の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「eBook」による図書館の24時間化を推進
8		研究費の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費取得目標 300 万円 ・教員の科研費獲得モチベーションを高めるため、獲得者に対する報奨金制度の導入を検討
9	教育・研究基盤の 整備	他校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・H26 開始の滋慶学園との教育提携で、ミュージカルに3名（内1名は準主役）が出演。一芸に秀でた才能を育成できる教科目、教育二ーズ応える補完的手段として、他校との教育提携も検討
10		書籍の刊行	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の公開講座（社会人リフレッシュ講座、なわて保育学講座、市民講座）の記録化を推進し、また、「シリーズ健康福祉本」を刊行・配布し、地域社会に貢献
11	社会貢献・ 文化活動の推進	社会人教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会人教育」（専門知識の学び直し等）を導入し、地域に貢献 <ol style="list-style-type: none"> ①幼稚園免許保持者の社会人を対象として「保育士特例講座」（夏季集中）を募集 ②出産・子育て等を機に離職した幼稚園教諭や保育士（潜在保育士等）に対する大東市等の研修に対する協力態勢を拡大

四條畷学園短期大学 3

No	分野	施策名称	事業計画
12	社会貢献・ 文化活動の推進	地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を行う等、「なわて保育学総合研究所」の活動を拡大し地域に貢献 ①地域の保護者を対象として「子育て相談支援」を実施 ②グリムコンサートを公開（本学HP上でコンサート動画を公開、過去のコンサートを編集・CD化）し、「音楽の四條畷短大」の文化・伝統を地域住民と共有
13		学園大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学リハ学部・看護学部と連携し、「認知症対策」や「高血圧対策」等の高齢者に関心のあるテーマによる市民公開講座をシリーズ化
14		大東市福祉協議会運営の事業への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・大東市福祉協議会運営の「生活サポート事業」（大東市に在住・在勤・18歳以上の学生が高齢者等の生活をサポート）に積極的に参加
15	内部進学	説明会の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学園高校向説明会で、在学生や卒業生の実体験を紹介し、各エリアの学びと就職先が具体的にイメージできるように説明に工夫し、本学に対する理解を促進
16		社会適応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・高校・短大を通じて継続的に挨拶やマナー等の基本を教育する仕組み（情報交換、定期的な協議会）を構築し、学園出身者の「社会適応力」を向上
17	進路対策・ 就職対策		<ul style="list-style-type: none"> ・大学編入希望者の個別相談に応じ的確に支援し、編入希望の多い大学・専門学校「編入指定校」を増やし、「大学編入」という就職以外の選択肢をアピール ・卒業生のネットワークを活用した懇談会等による卒業生と学生相互間の交流の機会を増やし、直近情報の交換、就職・社会体験等の共有化、先輩としての助言等により、学生の就職意欲の高まりや就職先の開拓 ・「公務員対策講座」の実施方法・内容を工夫することで、参加者・出席率を向上させ、公務員志望・適性のある学生を支援 ・地域の中堅・中小企業を開拓し、インターンシップを通じた就職先の確保
18	学生募集対策	認知度アップ	<ul style="list-style-type: none"> ・好成績の部活動やコンクール入賞、公開講座等を本学HPや大東市・四條畷市の広報誌に積極的に投稿することで、本学の認知度アップに貢献
19		給付奨学金の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高い学生に対する給付奨学金の拡充施策として、1年次成績に基づく、2年次授業料減額制度導入を検討
20		保護者支援の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、保護者対象に、2年生4月に1度開催していた「教育懇談会」を、各学期に開催することでサポート体制を強化 ・保護者とのコミュニケーションツールとして UNIPA の活用も検討

四條畷学園短期大学 3

No	分野	施策名称	事業計画
21	学生募集対策	効果的募集の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、入学者実績に基づいて媒体・業者の委託ウエートを見直し効果的な学生募集を行うことで、いかなる環境下においても外部入学者を安定的に確保
22		オープンキャンパスの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・短大生活やキャリアプランのイメージ（モチベーション）の理解を深めるため、オープンキャンパス等における模擬授業や短大生の実体験紹介を増加
23	災害対策		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル」に基づき、的確な災害対策、対応ができる体制を確立するために、短大の防災訓練を実施し、問題点を把握し改善策を検討
24	その他	業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスに則った業務改善に取り組み、効率性の向上ときめ細かい事務対応の両立を目指す。また、清風学舎と北条学舎の連携を強化し、基本知識と情報を共有することで、各職員が多様な窓口対応ができる体制を構築 ・事務部門では自由な意見交換により、前例にとらわれず、事務改善を継続するカルチャーを醸成 ・事務職員が外部のSD 啓発研修会等に積極的に参加し、ヒアリングした最新情報を教職員間で共有し、事務プロセスを改善 ・業務ミストラブル・ヒヤリハットを迅速かつ幅広く報告し、問題点や対応策を教職員が共有し、リスク削減につなげる文化を定着

No	分野	施策名称	事業計画
1	重点取組事項		<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神と教育理念にもとづく学校経営計画及び教育計画を策定・実践 <ul style="list-style-type: none"> ①教育理念・教育方針にもとづく教育計画の再構築 ②教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備 ・18歳の高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤を養成 <ul style="list-style-type: none"> ①主体的・能動的な学びの実践 ②集団・社会に貢献できる態度・実行力 ③部活動を通して心身の鍛錬 ④市民性を育む教育 ・人としての在り方生き方を考え、他者と共により良く生きていくための人権感覚を涵養 <ul style="list-style-type: none"> ①自己と他者が共により良く生きようとする態度 ②一人ひとりのニーズに応じた指導 ・進路目標の実現に向けて未来を切り拓く力を養うキャリア教育を実施 <ul style="list-style-type: none"> ①未来の目標を実現する能力 ②生徒の目標を実現させる進路相談・支援 ・安心・安全な社会を築くための態度と行動力を養成 <ul style="list-style-type: none"> ①防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施
2	教育内容・水準の充実	主体的・協働的学びの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的知識の習得のための授業改善の実施。 生徒評価点（28年度）≥ 3.8 ・思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善の実施 生徒評価点（28年度）≥ 3.8 ・対話力、課題発見・解決力等を養成するため主体的・協働的授業の実施 教職員自己評価点（28年度）≥ 3.5
3		集団・社会に貢献できる態度・実行力の修得	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動を通して規律ある生活態度、礼儀、マナーを修得 生徒評価点（28年度）≥ 4.0 ・活動・行動等を通して協調性・責任感・行動力などを修得 生徒評価点（28年度）≥ 4.0
4		良き市民・社会形成者としての態度・能力基盤の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義社会を担う主権者としての自覚を促す教育の実施 教職員自己評価点（28年度）≥ 3.8 ・将来の社会を担う健全な市民となるべく、市民性をはぐくむ教育の実施 教職員自己評価点（28年度）≥ 3.8

四條畷学園高等学校 2

No	分野	施策名称	事業計画
5	教育内容・水準 の充実	多様性の理解と 国際的資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・短期・長期の留学生の派遣・受入の推進 教職員自己評価点（28年度）≥ 4.0 ・英語科を中心とした教育活動を通じた国際理解教育の推進 教職員自己評価点（28年度）≥ 3.8
6		部活動を通じた社会性 の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・技能を磨き目標に向けた継続的な努力による心身の鍛錬 教職員自己評価点（28年度）≥ 4.3 ・仲間とともに目標の実現に向けた活動による社会性の獲得 教職員自己評価点（28年度）≥ 4.0
7		人権教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題への理解と解決に向けた態度の修得 生徒評価点（28年度）≥ 4.0 ・仲間とともに調和した生活をしようとする態度の養成 生徒評価点（28年度）≥ 4.0
8		生徒へのきめ細かな 相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・生活・心身等の課題を抱える生徒への丁寧な対応と支援 教職員自己評価点（28年度）≥ 4.2 ・適切な特別支援教育の実施 教職員自己評価点（28年度）≥ 4.0
9	教育・研究環境の 充実		<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標実現のため必要な設備・備品の洗出しと装備 ・生徒の成長を促進する教育プログラムの整理、見直し、拡充と部活動の一層の充実 ・一貫教育の強化のため各校園との連携強化と教育環境の整備
10	教育・研究基盤の 整備		<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの実施に向け、研修・報告・実践の機会の提供 ・ICT教育の実施に向け、研修・報告・実践の機会の提供 ・様々な教育課題の整理と課題の理解、解決のためのチームの編成、活動の実施
11	社会貢献・ 文化活動の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・地域公立中学校の進路指導に対する協力と交流の充実 ・部活動を中心とした地域社会の活動・イベントへの協力と交流の充実 ・職業体験・学習活動を通じた社会との連携・交流の充実
12	内部進学	中高連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会の設置
13		高短連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・連携教育の充実のためのプログラム整備 ・高短5年一貫教育の整備
16		高大連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・連携教育の充実のためのプログラム整備 ・大学進学者の拡充

四條畷学園高等学校 3

No	分野	施策名称	事業計画
17	進路対策・ 就職対策	進路学習・ キャリア教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習の実施 生徒評価点\geq4.2 ・上級学校、職業に対する関心・意欲を高める体験的学習の実施 生徒評価点\geq4.0
18		進学・就職支援の 講習実施	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択に必要な情報の提供と目標実現に向けた相談・助言 の実施 生徒評価点\geq3.8 ・進路指導體制の整備と講習、模擬試験等の実施 教職員自己評価点\geq4.0
19	生徒募集対策	募集・広報体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・人員・組織の整備 ・活動計画の立案、実施 ・活動予算の立案、効果的な実施
20		募集・広報戦略の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・募集の方法・手段・時期の効果的な設定 訪問・見学会・相談会・出張授業 パンフレット・ホームページ・広報雑誌等 ・活動対象に応じた戦略の立案、実施 公立中学校訪問・塾訪問・学校見学会・外部個別相談会等 ・活動内容・プログラム・PRポイント・提供情報等の工夫
21		教育の特色の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・教育改革に取り組み、特色を強化・明確化
22	災害対策		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの再確認とマニュアルに沿った対応の徹底 ・防災教育の充実と状況に応じた防災訓練の実施 教職員自己評価\geq4.5 ・教職員の安全・防災意識の向上・定着 教職員自己評価\geq4.0
23	その他	コンプライアンス管理 体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守意識・人権意識の浸透 ・教職員倫理の浸透 ・働きやすい協力し合える組織づくり
24		リスク管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク管理意識と報告体制の浸透 ・働きやすい職場環境の整備 ・連携しやすい組織と人間関係の構築 ・リスクの早期発見と対応

四條畷学園中学校 1

No	分野	施策名称	事業計画
1	重点取組事項		自分らしい生き方で社会に貢献できるよう、豊かな人間性と確かな学力が育つ学校を志向
2	教育内容・水準の充実	建学の精神に基づいた教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」を教職員がよく理解し、それに基づいた教育の実施 教職員自己評価点（28年度）\geq4.3 ・4つの教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事をはじめ、あらゆる教育活動を通じて人格形成を企図 教職員自己評価点（28年度）\geq4.4
3		ニーズに応じた3コース制の充実	<p>【英数コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習とクラブ活動の両立を志向 習熟度別授業、早朝テスト、進学講習などを通じて学力向上にも努め、高校進学実績を伸張 <p>【英数発展コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容をより深い内容まで掘り下げて充実させ、更なる学力の向上を志向 難関実力模試や豊富な授業量で難関高校への進学を実現 <p>【6年一貫コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科別習熟度別授業、学習強化合宿などを通じて学力向上をめざし、難関大学進学を実現 同時に社会人講座、自分プロジェクトなどの特別活動を通じて社会で活躍できる人材を育成 <p>平成30年度までに生徒・保護者評価点\geq4.2（全コース）</p>
4		マナー教育の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を守り、シェア・ザ・シート・挨拶の励行・マナー指導等を充実させ、品性豊かな人を育成 平成30年度までに生徒評価点\geq4.0
5	教育・研究環境の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた環境での授業を目指すため、教室、廊下、トイレなど美しい環境作りを推進 ・職員室の環境整備を行い、校務、授業の効率化を実施 ・不登校や心に問題を抱える生徒の支援を行うため、ICP・保健室の整備充実と連携を実施 生徒相談会議でICPとの連携を図りサポート体制を強化
6	教育・研究基盤の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や各会議、委員会の効率化と充実 ・職員研修の充実および自己研鑽や外部研修への参加奨励を行い、教員の資質を向上 ・教科研究、生徒指導などのための図書教材を整備・充実

四條畷学園中学校 2

No	分野	施策名称	事業計画
7	社会貢献・文化活動の推進	クラブ活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性や協調性の育成のため、クラブ活動への参加を奨励 ・各クラブ活動を活性化しクラブ参加率を向上
8		行事等の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・情操面を豊かに育てるため、宿泊研修をはじめ、校外学習、人權学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を行い、また各行事の更なる充実、向上を企図
9	内部進学	小学校との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会などを通じて内部小学校との連携を充実 ・中学校紹介・進路相談コーナーなどを設置し、公開授業・体験授業などへの児童の参加を勧奨
10		高等学校との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡会などを通じて内部高等学校との連携を充実 ・各教員が内部高等学校の教育内容を十分に理解するよう努力
11	進路対策		<ul style="list-style-type: none"> ・高校進学の見学指導の強化（3年コース） ・保護者対象進路説明会の開催。（年2回） ・進路面談における進路希望調査アンケート（3回）の活用 生徒評価点\geq4.2
12	生徒募集対策		<ul style="list-style-type: none"> ・外部児童対象の入試説明会を年4回実施し、在校生によるクラブ紹介、理科の実験、Q & Aコーナーなども設定 ・外部児童の入試への不安を取り除くため、プレテストを年2回実施 ・工夫を凝らした説明会の開催
13	災害対策		<ul style="list-style-type: none"> ・火災、地震、津波等を想定した防災訓練の実施（年2回） ・防犯設備の充実 ・普通救命講習の受講（教職員全員対象） ・生徒会による被災者支援活動の実施（毎年） ・防災備蓄の実施
14	その他	ホームページの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい説明、タイムリーな更新等 ・Facebook による情報発信

四條畷学園小学校 1

No	分野	施策名称	事業計画
1	教育内容・水準 の充実	独自性の高い教育の 開発・実践	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研究会（H2 9/1 実施）を視野に入れ、校内研究授業を計画実践し、今後の研究を深化 指導力向上をめざし、指導要領にプラスした独自性のある学習プログラム開発 授業力錬磨をめあてとした教員研修の積極的参加を奨励 指導力に関する教職員自己評価 \geq 4.1
2		児童の自主性・主体性 の発揮	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や児童の意見をもとに林間学校や修学旅行の内容を再検討・改善
3		基礎学力の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 国語の観点のうち、「書く能力」を向上 「書き、まとめる」「書いて考える」「書いて交流する」授業プランを開発、改良 複数の教員が授業化することによりプランの質的を向上 学力向上に関する教職員自己評価点 \geq 4.3
4		規律遵守意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「自律の手助け」を念頭に置き、「しつけポスター」を指針として家庭と学校が協力し、指導を実施 校内美化、言葉づかい、時間遵守について、教員が範を示して児童が見倣うことのできる機会増を志向 自己評価と学級担任による評価を併用して、マナー向上を数値化し、児童のやる気を促進 登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学路に立ち、児童を直接指導 食事マナー向上のため、職員が交代で食堂に行き、児童を直接指導 通学マナーの改善が見られない児童、恒常的に遅刻する児童は家庭に連絡し、協力を要請 児童自身が校内のマナー向上策を考え、実行に移せるような縦割り活動や児童会活動を整備し、活性化 マナー・モラルに関する教職員自己評価点 \geq 4.0
5		児童会活動・行事の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自主性・主体性がより発揮できるよう、縦割り活動や児童会活動、行事の内容を再検討 ①児童自身が校内のマナー向上策を考え、実行に移せるような縦割り活動や児童会活動を整備し、活性化 ②行事と学習計画のつながりをより明確にし、児童自身が行事を通して自己の伸びを実感できるプログラムへの改善 主体性に関する教職員自己評価点 \geq 4.0

四條畷学園小学校 2

No	分野	施策名称	事業計画
6	教育内容・水準 の充実	学校美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の持ちものの整理整頓、指導を定期的実施 ・職員室の機器管理の徹底と業務の効率化の推進 ・児童の「自教室」の美化意識を向上させ、校内全体の美化意識を向上 美化に関する教職員自己評価点 \geq 4.0
7	内部進学対策	幼稚園との連携強化	・連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交流
8		中学校との連携強化	・中学への内部進学者数の増加対応
9	児童募集対策		<ul style="list-style-type: none"> ・児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討 ・入学を検討している保護者に対する、校内外入試説明会・塾説明会・体験授業の方法を検討 ・広報媒介の検討 ・外部から入学を希望する保護者への説明の見直し
10	災害対策	防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・火災、地震等の防災係を組織 ・防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難訓練の実施 ・マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を定期的な点検 ・緊急集団下校マニュアルを作成し、円滑な保護者への引き渡しを目的とした訓練の実施 ・緊急時の一斉配信システムを整備 ・宿泊を伴う校外行事で、最初に避難経路を児童に知らせ、必要に応じて避難訓練を実施
11		不審者等への対策	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に危害が及ぶ危険性を段階的に設定（危機レベル） ・危機レベルごとに迅速な対応ができるよう、教職員の訓練を実施
12		防災教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全に対する意識を向上させるため、特別活動や道徳の時間を使って安全教育を実施 ・外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を実施（四條畷警察・安全教室、NTT 安全モラル教室等） 防災・安全に関する教職員自己評価点 \geq 4.1

No	分野	施策名称	事業計画
1	重点取組事項		<ul style="list-style-type: none"> 心身の健全な成長の基礎を育成 基本的な習慣とマナーの修得 安心・安全で安定感をもって活発な活動ができる教育環境を整備 集団生活を通してルールを守り助け合う態度を養成 教職員の研修を推進し幼稚園運営体制の充実を企図
2	教育内容・水準の充実	基本的な習慣とマナーの修得	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の着脱、食事、排泄などの自立 (4.0) 手洗い、うがい、歯磨きなど理解した生活の習慣化 (4.0) 靴を揃える、片づけ、清掃活動などの積極的な行動の定着 (4.0) 日常生活に必要な挨拶の推進と習得 (4.0)
3		社会性の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 良い人間関係の形成力を養成 (4.0) 集団生活のきまり・ルールを遵守出来るような指導 (4.0) 公共の場での望ましいマナーの習得 登降園時の通行や園外の会場・電車内などで安全な態度・マナーのある行動ができる指導の強化。(4.0) 善悪の判断力を養成
4		「心の力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 困っている友だちに気付き優しさがもてるように指導 (3.8) お手伝いの率先 (3.8) 正義感、道徳感の育成 自己肯定感の自立と思いやる心の育成 自尊感情の醸成
5		「体の力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> かけっこや体操を通して健康な身体の育成 (4.3) 柔軟体操を通して筋力・柔軟性の育成 (4.0)
6		「学ぶ力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 本読みから豊かな自己表現力の育成 (4.0) 50音の習得のためひらがなカードや表を使った指導 (4.0) ひと桁の足し算・引き算ができる指導から理解力・思考力・洞察力の育成 (4.0) 時計を使って時間の認識向上

四條畷学園大学附属幼稚園 2

() 内：教職員自己評価点<目標>

No	分野	施策名称	事業計画
7	教育内容・水準の 充実	伝統文化の理解	・おもちつき・お茶会・豆まき等の体験を通して日本の伝統と文化への理解を育成
8		行事などの活性化 その他	・行事・活動に取り組み、努力・協力する態度の養成 (4.0) ①季節に応じた行事を実施 ②異年齢交流の充実と推進
9		発達に応じた指導の 実践	・子どもの個性や特性の違いをふまえ一人ひとりに応じた指導の実践 (4.0) ①一人ひとりの子どもを良く見て個性を尊重した指導 ②特徴のある子どもには保護者と連携しその子にあった支援の指導を実践。
10	教育・研究環境の 充実	環境整備の充実	・安心して楽しく生活できるための保育環境の整備 (4.3) ①本が好きになるような内容を考慮した図書の実 ②活発に各自で体操を取組める体操設備の充実 ③音楽が楽しめるような楽器の充実 ④遊具・用具の整備 ・子どもが喜んで自然や社会に触れる環境整備 (4.2) ①生命の尊さに気付けるような飼育、栽培(野菜)の環境整備 ②探究心を養うため自然に触れる機会の充実 ③自然や社会に触れる園外活動の実施 ④祖父母と交流できる場を実施
11	教育・研究基盤の 整備		・教職員の資質の向上のため園内研修の充実と実施 (4.2) ①ステップアップ会議の充実と教職員相互の研鑽 ②保育力向上を目的とした園内研修の実施と充実 ③幼児体育の専門による指導を受け体操指導力の向上 ・教育力の充実のため教職員の協力・連携を強化 (4.2) ①会議の充実を図り、保育課題の情報を共有し改善の研究 ②教職員の連携と協力の強化 ・各学年の達成目標の明確化 ①目標達成のための指導強化・支援。(4.0)
12	社会貢献・文化活 動の推進	家庭と地域の支援・協 力	・保護者地域住民への情報提供し、家庭・地域の幼児教育の支援と奨励 (4.2) ①家族の保育参画の推進 ②行事の案内・参加 ・地域と連携して豊かな教育活動の実施 (4.0) ①地域の協力を得た芋ほりやみかん狩りなどの園外活動実施 ②エコキャップ運動を継続実施
13	内部進学対策	小学校と連携強化	・学園小学校の生活になじめるよう基本的な態度・技能を指導 ・連絡会・協議会を通し教師間の相互理解と交流
14	進路対策		・小学校の学習や生活になじめるよう基本的な態度・技能を指導

四條畷学園大学附属幼稚園 3

() 内：教職員自己評価点<目標>

No	分野	施策名称	事業計画
15	園児募集対策		<ul style="list-style-type: none"> ・入園につなげるためのプレスクールの充実（年2 4回実施） ・無料体験エクササイズの実施と内容の充実（年5回実施） ・2歳児ひよこ組の保育環境の充実（今年度より開始5月） ・幼稚園の保育内容を知る機会の参加型の見学会を実施（年9回） ・在園児との交流を考慮した一日入園の充実（年1回実施） ・園紹介などわかりやすいホームページの充実（3.8）
16	災害対策	防災・防犯教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全確保のため防災・防犯教育の対策（4.2） ①危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が習得できる指導 ②安全な避難の仕方の指導（消防による火災避難訓練の実施1回、地震避難訓練を3回実施） ③マニュアルに基づいた園児引き渡し訓練の実施（年1回） ④安全対策の充実のため警察による指導と（交通安全1回、防犯1回、）JRによる指導を実施（1回）

主な新規事業計画 1

法人本部

No	事業名	事業概要
1	短期大学北条学舎 A 棟廊下改修	教育環境整備のため A 棟廊下の改修工事实施
2	北条テニスコート整備	イレギュラーが多く使用に支障を来すため土のコートをオムニコートに改修
3	総合ホール整備工事	非常放送設備の更新
4	同上	5 階講堂 壁面ドア改修
5	同上	図書館柱補修
6	リハ・清風学舎整備工事	ガス空調室外機整備
7	電気設備工事	校内引き込み高圧ケーブル取替え
8	温水プール整備工事	トイレ洋式化工事
9	高校体育館整備工事	1 階空調設備の更新
10	同上	トイレ洋式化工事
11	高校校舎整備工事	飯盛嶺校舎 1 階女子教職員トイレ洋式化
12	同上	家庭科室給湯器更新
13	中学校校舎整備工事	EV 制御部品入替
14	中高教務システム、アンケートシステム 更改	既存サーバーおよびシステムのサポート切れ対応
15	新任教職員用 PC 導入	新規採用教職員用 PC 導入

大学

No	事業名	事業概要
1	大学ホームページ更新	情報発信力強化のため HP を更新
2	食育 SAT システム導入	看護学部、生活習慣病の指導アイテムとして導入。公開講座等にも使用
3	学生ラウンジ椅子、テーブル	リハ学部、環境整備のため新しいものと入れ替え
4	防災備蓄倉庫設置	リハ学部、現在一か所にまとめているものを各フロアに分散保管
5	シニアポーズ（高齢期体験セット）他	看護学部新設に伴う機器備品の充実

短期大学

No	事業名	事業概要
1	印刷機、ろくろ買い替え	老朽化に伴う機器入れ替え
2	e-ラーニング導入	学生の学修支援のため

主な新規事業計画 2

高等学校

No	事業名	事業概要
1	吹奏楽部楽器購入	劣化のため入れ替え及び補充
2	高等学校ホームページ更新	情報発信力強化のためHPを更新

中学校

No	事業名	事業概要
1	紙折り機及び印刷機	機器の入れ替え
2	吹奏楽部楽器	劣化のため入れ替え

小学校

No	事業名	事業概要
1	生徒用机・椅子	劣化のため入れ替え
2	スクリーン	劣化のため入れ替え及び体育館に新規設置

幼稚園

No	事業名	事業概要
1	折り畳みソフトベンチ	劣化のため入れ替え

90周年記念事業

90周年記念誌、小冊子の発行、記念品の製作、記念講演会、記念式典、記念コンサート（ザ・シンフォニーホール）、記念音楽会（いずみホール）ホームカミングディイベント等を行うと共に新聞広告、Web サイト構築を行います。